

# 災害時の行動について

本市では、30年以内に80%の確率で発生すると予想されている「南海トラフ巨大地震」や、「上町断層帯」における地震等、経験したことのない規模の災害がいつ発生してもおかしくない状況です。

また、最近では地震災害だけではなく「平成29年7月九州北部豪雨」や「平成30年7月豪雨」、「平成30年台風第21号」など、風水害による被害も年々増加しています。

大規模な災害では市域全体が被災します、消防や自衛隊等の活動も、倒壊建物や火災、道路渋滞により直ぐには活動できないため、住民をすぐに助け出すことが困難な状況となります。

さらに市は災害発生直後、応急対策、災害に関する被災状況の把握、府や国との連絡調整、市民等に対する情報伝達などに全力を尽くしますが、業務が短時間に集中することにより、市域全域の応急復旧に迅速に対応することが難しくなります。

そのため、災害から「命」を守るためには、「自分の身は自分で守る」自助と、「自分たちのまちは自分たちで守る」共助の働きが重要であり、それらと「防災関係機関の取組」公助が連携することで地域の防災力向上につながります。

この「災害時の行動について」を町会・自治会の減災への備え、さらには災害発生時に取るべき行動や対応の参考としてご活用いただけますようお願いいたします。

# 災害時の行動について(〇〇町会・自治会)

## 町会・自治会の活動

- 危険な箇所の見回り
- 資機材の用意  
例 土のう、ブルーシートなど

- 町会・自治会館へ役員集合  
(もしくは市指定避難所へ集合)
- 避難行動要支援者の避難支援
- 継続的な情報収集・整理
- 町会・自治会館への受け入れの検討

- 市対策本部への情報提供
- 市対策本部からの情報収集
- 市からの情報を地域住民へ伝達

- 地域の見回りにより被害情報を収集
- 継続的な災害情報の収集・整理
- 市からの情報を地域住民へ伝達

- 安全が確保出来た時点で、地域の見回りなどの被害情報を収集
- 継続的な災害情報の収集・整理
- 市からの情報を地域住民へ伝達
- 避難所運営委員会に積極的に参画し主体的に避難所を運営
- 町会員からの要望への対応、市への要請
- 市からの協力要請への対応  
例 支援物資の配布 など

## 個人の活動

### 事前しておくこと

- 平時から自分の住んでいる地域がどのような災害時に危険か把握しておく。
- 災害への事前対策
  - ・家の周りのものを片付ける
  - ・非常持出袋を準備する
  - ・土のう、ブルーシートなど

- 避難の事前準備
- 避難行動
  - ・高齢者等で避難の必要のある方は避難開始
  - ・火の始末
- テレビ・ラジオ等で災害の情報を収集

- 近隣の被災状況の把握
- 避難が必要となったらできる限り集団を作り避難行動を開始
- 在宅非難または避難所へ避難

- むやみに屋外に出たりせず、できる範囲での避難を行なう。

- 避難所へ避難した場合、避難所運営への協力

テレビ、ラジオ、市からの情報をもとに

台風接近  
大雨・長雨など

災害予防

避難準備・高齢者等  
避難開始情報の発令

避難勧告

避難指示(緊急)  
記録的短時間大雨  
特別警報

災害発生

### 町会・自治会で事前に決めておくこと

- 町会・自治会館もしくは市指定避難所への集合のタイミング  
例 警報発令時、市指定避難所開設時、台風接近時など
- 町会・自治会館への受け入れの可・否(耐震等も含め)
- 災害時の業務と担当者を決めておく  
例 情報収集担当・物資分配担当・避難所担当・要支援者担当・広報担当など
- 避難行動要支援者名簿の活用タイミング・担当者
- 資機材利用のタイミング

# 災害時の行動について(〇〇町会・自治会)



災害直後の対応



役員参集まで



役員参集後



安全の確保が出来た  
時点



## 町会・自治会の活動

## 個人の活動

まず、自分（家族）の身を守る

- 火災を発見したら、素早く初期消火（初期消火のみ）
- 町会・自治会館へ役員集合（もしくは市指定避難所へ集合）

- 机の下に身を隠す、オープンなスペースに避難する等

### 事前にしておくこと

- 家族の安否確認の手段を決めておく
- 非常持出品等の準備
- 避難経路の確認

- 避難行動要支援者の安否確認・避難支援
- 集合時の町内の被災状況の情報整理
- 市対策本部への情報提供
- 市対策本部からの情報収集

- 避難の事前準備
- 避難行動
  - ・火の始末（ブレーカーを落としてから避難など）
- テレビ・ラジオ等で災害の情報を収集

- 消防への負傷者の連絡
- 負傷者の応急救護及び搬送
- 町会・自治会館への受け入れの検討（会館の状況確認含）

- 近隣の被災状況の把握
- 避難が必要となったらできる限り集団を作り避難行動を開始

※外出先で被災した場合は、むやみに移動しない

- 地域の見回りにより被害情報を収集
- 継続的な災害情報の収集・整理
- 市からの情報を地域住民へ伝達

- 在宅非難または避難所へ避難

- 避難所へ避難した場合、避難所運営への協力

### 町会・自治会で事前に決めておくこと

- 町会・自治会館もしくは市指定避難所への集合のタイミング  
例・震度5弱で自動集合・震度5強で自動集合・震度5強以上なら市指定避難所に自動参集など
- 町会・自治会館への受け入れの可・否（耐震等も含め）
- 災害時の業務と担当者を決めておく  
例・情報収集担当・物資分配担当・避難所担当・要支援者担当・広報担当など
- 避難行動要支援者名簿の活用タイミング・担当者
- 資機材利用のタイミング